

## 金沢大学国際機構 『国際機構紀要』投稿規程

1. 本誌への投稿は金沢大学の教員(非常勤講師を含む)に限るが、共著者にそれ以外の者を含むことができる。ただし、国際機構が依頼する原稿についてはこの限りではない。
2. 投稿できる原稿のテーマは次のとおりとする。
  - (1) 留学生教育に関するもの
  - (2) 異文化理解教育に関するもの
  - (3) 言語、文化、またはそれらの教育に関するもの
  - (4) 国際交流、国際協力に関するもの
  - (5) その他、編集委員会が認めるもの
3. 投稿原稿の種類は次のとおりとする。
  - (1) 学術論文
  - (2) 実践報告
  - (3) 調査報告
4. 投稿原稿は未発表のものに限る。
5. 投稿原稿の内容・記載については、第三者の著作権を侵害しないこと、研究手法において人権を侵害しないこと、法令を遵守することを確認すること。
6. 本誌は原則として毎年3月に発行する。発行までの日程は下記のとおりとする。
 

|              |         |
|--------------|---------|
| (1) 投稿申込み締切り | 11月末日   |
| (2) 原稿提出締切り  | 1月末日    |
| (3) 採用可否通知   | 2月初旬    |
| (4) 校 正      | 2月初旬～中旬 |
| (5) 発 行      | 3月中     |
7. 投稿者は、投稿原稿の著作権が国際機構に帰属することに同意するものとする。
8. 投稿者は、完成原稿とその電子ファイルを国際機構に提出する。
9. 出版に要する費用は国際機構で負担するが、別刷り増刷を希望する場合は著者負担とする。
10. 国際機構が編集委員会を設置し、原稿の採否及び編集と校正に係る。

## 金沢大学国際機構 『国際機構紀要』執筆要項

1. 原稿はA4判用紙にワープロで横書きとし、ページ当たり40文字×36行の書式で、最大15ページまでとする(注、参考文献等を含む)。提出用の電子ファイルはMicrosoft Wordフォーマットで保存すること。
2. 原稿の使用言語は日本語か英語とする。提出前に母語話者によるチェックを受けるなどして完全原稿を提出すること。
3. 原稿作成にあたっては次のことを遵守すること。
  - (1) 原稿には日本語及び英語で、タイトル、著者名、所属、要旨(日本語300字程度、英語150語程度)を添えること。
  - (2) 章、節、項の区分にはI, 1, 1)の順に用いること。
  - (3) 本文は明朝体10.5ポイント、章区分及び章タイトルはゴシック体12ポイント、原稿タイトルはゴシック体14ポイント、著者名と所属はゴシック体9ポイントのフォントを用いること。
  - (4) 注は後注(文末注)とする。
  - (5) 参考文献、図表番号、引用方法の様式については、当該分野の標準形式に従うこと。
4. 著者校正は第2校までとし、校正段階における原稿の修正は字句訂正に限定する。



# Research Bulletin

## Vol.1

### CONTENTS

#### (Article)

- A Collaborative Class Combining Physics and the Japanese Language:  
The Importance of Teaching and Learning *Kanji* and Technical Terms in the Context of Physics  
Akira Ota, Naoko Sato, Kiyoshi Fujita and Ranmi Kim 1

#### (Report)

- Issues and possibilities for giving a lecture in English  
-Introduction of cases in School of Medicine-  
Tadayuki Akagi 15
- Report on an English conversation event “English Hour!” at Kanazawa University  
Saki Inoue 31
- Learning Support Activities for Children of Foreign Backgrounds as a Place for  
Promoting a Multicultural Symbiotic Community  
Megumi Shimura and Nozomi Fukasawa 45
- Japanese Language Education Curriculum Development for International Graduate  
Students of Science and Technology  
Miho Fukagawa, Tomomi Takabatake, Kasumi Tago and Masako Tsutsui 61
- Promoting Autonomous Learning through Materials Design:  
The Successful Example in Kanji and Vocabulary Learning  
Satoko Fujita 81

#### (Research Report)

- A Pilot Study for a Multimodal Analysis of Japanese Public Speaking  
Nozomi Fukasawa 99

Organization of Global Affairs  
Kanazawa University

2019.3